



**白濱 吉起** (しらはま よしき) 産総研 地質調査総合センター 活断層・火山研究部門 (活断層評価研究グループ)

2015年3月に東京大学で博士課程を修了し、同年4月より活断層・火山研究部門活断層評価研究グループに産総研特別研究員として配属されました白濱と申します。

登山が趣味で、山を歩いているうちに地形の成り立ちに興味を持った結果、変動地形学を専門として学んでいます。これまでの研究では、地形データや空中写真を用いての変動地形の判読と活構造のマッピングを主に行ってきました。そして、宇宙線生成放射性核種を用いた表面照射年代測定によって変動量の指標となる段丘や扇状地といった堆積地形の形成年代推定を行い、対象とする構造の変動速度を定量的に明らかにしてきました。博士課程まではチベット高原北東縁を主な研究対象地域とし、高原縁辺部の隆起・短縮速度とそれをもたらす地下の断層構造を推定しました。本グループでは、今年度は新潟県十日町盆地の十日町断層帯の調査を担当します。その中で、これまでの活



断層調査の経験をできるだけ生かしつつ、いち早く戦力となれるよう、さらなる知識と経験の習得を目指していく所存です。産総研での業務はもちろんのこと、社会の安心安全のため、お役に立てるよう精進して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。



**小野 昌彦** (おの まさひこ) 産総研 地質調査総合センター 地圏資源環境研究部門 (地下水研究グループ)

本年度4月より任期付研究員として地圏資源環境研究部門の地下水研究グループに配属された小野昌彦です。平成24年9月から産総研特別研究員として勤務しておりました。専門は水文学で、これまでに地層処分に関する地下水研究のプロジェクト、知的基盤整備として水文環境図のプロジェクトに携わってきました。個別の研究としては、沿岸域における海底地下水湧出の実態把握や地下水の塩水化プロセスの解明、地下水年代の推定といったテーマに取り組んでおります。

産総研に着任してから3年が経過しましたが、地質調査総合センターには豊富なデータベースがあって、それらを大いに利用できる環境があるということを実感しています。任期付研究員の期間



中にこの環境を十分に活用して、自身の研究を発展させて行きたいと考えております。また、所内の方々や所外の研究機関などと連携して新たな研究を展開できればと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。



**伊藤 一充** (いとう かずみ) 産総研 地質調査総合センター活断層・火山研究部門 (地質変動研究グループ)



2015年4月より任期付研究員として地質変動研究グループに配属となりました。伊藤一充と申します。学部から博士課程まで金沢大学に在籍し、学位取得後は学振PDとして英国アベリスタウウィス大学と名古屋大

学でそれぞれ約1年間研究し、2013年4月から2年間は地質情報研究部門海洋環境地質研究グループに所属しておりました。

専門は地球年代学で、特に堆積物の堆積年代を決定できるルミネッセンス年代測定法を使った研究を行ってきました。学部から博士課程にかけては、湖底堆積物コア試料を対象とした環境変動解析などを行い、産業技術総合研究所へ来てからは、それに加え深部地質環境研究コアとの共同研究で地盤の隆起沈降速度評価手法の開発のために海成段丘堆積物の年代決定を行ってきました。本年度からはその研究をさらに深め、高レベル放射性廃棄物等の地層処分に係る安全規制のため、ネオテクトニクスの将来予測手法・評価手法の開発に取り組んでまいります。

また、自身の研究対象だけでなく、諸先輩方とも研究を行うことで様々なものにこの手法を適用していけたらと思っております。今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



**小森 省吾** (こもり しょうご) 産総研 地質調査総合センター地圏資源環境研究部門 (物理探査研究グループ)



2015年4月より、任期付研究員として地圏資源環境研究部門 物理探査研究グループへ配属となりました。小森省吾と申します。昨年度まで、活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループに所属しておりました。幼少期に夢中になったダム造り・井戸掘り遊び(砂場で)をきっかけに地下流体挙動に興味を持ち続

け、大学院にて、地下流体が関与する地学現象の1つである火山活動や熱水系の発達を対象とした研究を行いました。私の専門は電磁気学(+地下水理学)です。これまでに、電気探査・AMT法をはじめとした物理探査手法を火山体下の熱水系に適用することで、地下の比抵抗構造を明らかにし、さらに、比抵抗構造と熱水流動のモデル計算の結果とを組み合わせることで、地下のマグマから放出される火山ガスの量を推定する手法を考案しました。電磁気学的手法は、火山地域に限らず、地下水探査や金属鉱床探査等、様々なフィールドに適用可能な手法です。今年度からは地圏資源環境研究部門の一員として自身の研究分野を拡大し、地球科学に対する見識を一層広め、かつ深化させていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



**山谷 祐介** (やまや ゆうすけ) 産総研 エネルギー・環境領域 再生可能エネルギー研究センター (地熱チーム)



2015年4月に任期付研究員として再生可能エネルギー研究センターの地熱チームに配属となりました。山谷祐介と申します。2013年1月から2015年3月までは、特別研究員として地質情報研究部門地球物理研究グループでお世話になりました。つくばでの生活も

気に入っていたのですが、いまとなっては福島市の自宅から郡山市の研究所への通勤にも慣れ、福島県内の生活を満喫しています。

専門は地球電磁気学で、その中でも電磁法による比抵抗構造探査を用いた研究を行っています。これまで、火山地域や断層帯などで探査を実施し、火山や地震の活動と流体分布を主とする地下構造との関係を明らかにしてきました。

着任後は、比抵抗構造探査による地熱貯留層の高精度モニタリングの実用化を目指し、福島県の柳津西山地熱発電所周辺を主なフィールドとして研究を進めています。安定的かつ豊富な資源量が見込まれる地熱エネルギーは、将来にわたってベースロード電源としての利用が期待されています。この利用をさらに増進させるべく、産総研内外の研究者・機関と連携協力して研究開発に励みたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**GSJ 交差点** (2015年9月7日確認)

☆活断層・火山研究部門 (隔月刊)

IEVG ニュースレター (2015年8月号)

[https://unit.aist.go.jp/ievg/katsudo/ievg\\_news/index.html](https://unit.aist.go.jp/ievg/katsudo/ievg_news/index.html)

目次

1. 地震に伴って発生し四年以上も継続する温泉湧出／佐藤 努
2. 宇宙線生成放射性核種を用いたチベット高原北東縁における変動地形についての研究／白濱吉起
3. アメリカ岩石力学シンポジウム参加報告・ローレンスバークレー国立研究所訪問記／朝比奈大輔
4. アジア・オセアニア地球科学会第12回年次大会報告／小泉尚嗣
5. 米国カスケード火山ワークショップ報告・前編／東宮昭彦ほか
6. 平成27年度地震・津波・火山に関する自治体職員用研修プログラム報告／小泉尚嗣ほか
7. 新人紹介
8. 2015年6-7月外部委員会

☆広報部 産総研 LINK が産総研 TODAY の後継誌として7月に創刊されました。

[http://www.aist.go.jp/aist\\_j/aistinfo/aist\\_link/index.html](http://www.aist.go.jp/aist_j/aistinfo/aist_link/index.html)

☆地圏資源環境研究部門 (年4回刊行)

GREEN NEWS 49号 (2015年7月号)

[http://green.aist.go.jp/ja/blog/category/product\\_jp/greennews\\_jp](http://green.aist.go.jp/ja/blog/category/product_jp/greennews_jp)

目次

1. 巻頭言 新人採用と育成について／光畑裕司
2. 新研究グループ長あいさつ・グループ紹介／森田澄人
3. 2015 Grant 紹介
  - ・リグニン由来有機物分解に関与する新規微生物の培養と機能解明／地圏微生物研究グループ 片山泰樹・吉岡秀佳・坂田 将
  - ・LIBS/LA-ICPMSによる全元素分析法の開発／鉱物資源研究グループ 昆 慶明・児玉信介・荒岡大輔・江島輝美・三好陽子
  - ・海底掘削試料の即時IP特性計測技術の開発／物理探査研究グループ 小森省吾・高倉伸一・光畑裕司
4. 参加報告 第25回環境毒性化学会 欧州地区会議／川辺能成
5. 海外留学記
  - ・タスマニア大学CODES／実松健造
  - ・ジュネーブ大学地球環境科学研究科／星野美保子
  - ・アメリカ地質調査所California Water Science Center／井川怜欧
6. 新メンバー紹介
7. 異動挨拶
8. イベントカレンダー